

Lesson 08 「飛鳥期の国づくり」

～ Logical - 通史理解「日本史探究」疾風 Watabe 塾 ～

【中央集権へのあゆみ】

① 5～6世紀の東アジア《朝鮮》

- 5世紀後半に〔1〕が南下し、〔2〕は体制を整え対抗
→ 6世紀には百済・新羅が〔3〕（=任那）地域へ進出
- 562年に新羅が加羅の主要地域を占領し、ヤマト政権の朝鮮半島における勢力が衰退
→ この過程でヤマト政権では、大連：〔4〕が失脚

② ヤマト政権の展開

- 欽明天皇のもとで大臣の蘇我稲目と大連の物部尾輿らが権力を掌握
→ **蘇我氏と物部氏は仏教の崇拝をめぐり対立** ⇔ 〔5〕 **論争** 〕
- ヤマト政権は渡来人の知識を利用して財政機構を整備
→ 九州から関東の各地に〔6〕を設置し、国造への支配を強化
斎蔵・内蔵・大蔵の三蔵を管理
- 蘇我氏は大王家との婚姻関係を強化
- 587年～大臣〔7〕が、大連〔8〕を滅ぼす…〔9〕
※仏教受容の政治問題化による最終闘争
- 592年～蘇我馬子は、自身で擁立した〔10〕 **天皇** 〕を暗殺して権力確立

【推古朝の政治】

① 東アジア情勢の変化

- 〔11〕が589年に中国を統一し強大な国家を形成
→ 高句麗遠征をくり返すなど、朝鮮諸国に圧力

② 推古朝の政治

- **天皇 = 推古天皇**
皇太子：〔12〕（聖徳太子）と、大臣：蘇我馬子
- 603年～〔13〕の制を定める
→ 個人単位に冠位を与えることで、世襲の原則を改めて官制を再編
- 604年～〔14〕を制定
→ 豪族に官吏としての守るべき道を示し、**天皇を中心とする国家理念**を示す
仏教や儒教などの思想を導入
- 『天皇記』『国記』などの歴史書を編纂

③ 遣隋使の派遣

- 600年～最初（第1回）の遣隋使を派遣（『隋書』）
- 607年～第2回遣隋使
大使として〔15〕を派遣（『隋書』『日本書紀』）
- 国書では、隋に臣属しない旨の意思伝達…隋の皇帝〔16〕 **ようだい** 〕へ
→ 隋は、翌年に使節として〔17〕を日本に派遣
- 第2回遣隋使では「留学生」として…〔18〕、学問僧 **旻**（みん）、〔19〕が派遣され、中国の政治・制度・学問・宗教を学び帰国

【飛鳥文化】

① 飛鳥文化の性格

- 6世紀後半から7世紀初頭の文化を、政権の所在地（現在の明日香村）の名から〔20〕と呼ぶ
→ 最初の高度な仏教文化、中国南北朝文化の影響など国際的な性格
⇒ のちの **白鳳文化・天平文化** へと続く《 **日本仏教文化の出発点** 》

② 寺院の建立と仏教思想

- 王族・豪族たちによる氏寺の建立
◇蘇我馬子→〔21〕（法興寺）⇐「初の本格的伽藍」
◇厩戸皇子→〔22〕（斑鳩寺）⇐「現存世界最古の木造建築」
" →〔23〕 大阪市天王寺区 ⇐「日本最古の官寺」
◇舒明天皇→〔24〕⇐「初の天皇家の寺/大官大寺に改称」
- 仏教はいまだ呪術的なものと考えられており思想の理解は不十分
→ 厩戸皇子は仏教思想を学び〔25〕を著す
※三経 = 『法華経』『勝鬘経』『維摩経』の注釈書

③ 仏像の造立

- 〔26〕（別名：止利仏師、司馬達等の孫）が〔27〕 **釈迦三尊像** 〕を作製
- その他：飛鳥寺釈迦如来像、法隆寺百済観音像、法隆寺夢殿救世観音像、中宮寺半跏思惟像、〔28〕 **半跏思惟像** 〕 など

④ 工芸品・絵画

- 法隆寺所蔵の国宝の一つである〔29〕は、須弥座絵/扉絵が有名
- 厩戸皇子の妃の橘大郎女の発願により〔30〕 **天寿国繡帳** 〕を作製

⑤ 新しい文化の伝来

- 百済の僧…〔31〕…「曆」を伝える
- 高句麗の僧…〔32〕…「紙・墨・絵具・彩色」を伝える